



---

# 過去10年間における 火災統計資料

---

(釧路市・白糠町 平成25年～令和4年)



令和5年3月作成

釧路市消防本部予防課

## 目次

### 1 過去10年間火災の傾向(全617件)

(1) 火災発生件数と損害額	1
(2) 火災種別件数	1
(3) 管轄別火災発生状況	1
(4) 消防覚知時間帯別火災発生状況	1
(5) 月別・日別・曜日別火災発生状況	1
(6) 死者及び負傷者の発生状況	
ア 死者発生状況	2
イ 負傷者発生状況	2
(7) 火災原因状況	3
(8) 火災原因上位について	
ア 電気関係	3
イ たばこ	4
ウ 放火・放火の疑い	4
エ ストーブ	5
オ こんろ	5

### 2 住宅火災の実態(全225件)

(1) 建物火災中における住宅火災の発生状況	6
(2) 住宅火災の焼損程度別件数	6
(3) 住宅火災の出火箇所別件数	6
(4) 住宅火災の出火原因別火災件数	6
(5) 住宅用火災警報器の設置状況等	7
(6) 住宅火災における死者発生の時間帯	7

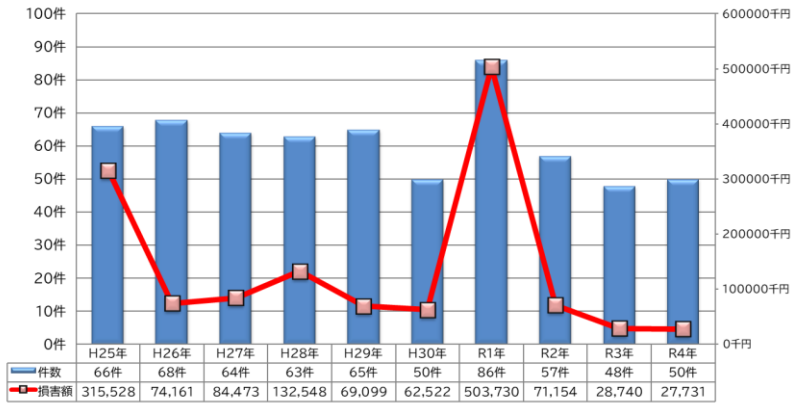
### 3 各時季の火災の特徴

(1) 春(3月～5月)	8
(2) 夏(6月～8月)	8
(3) 秋(9月～11月)	9
(4) 冬(12月～2月)	9

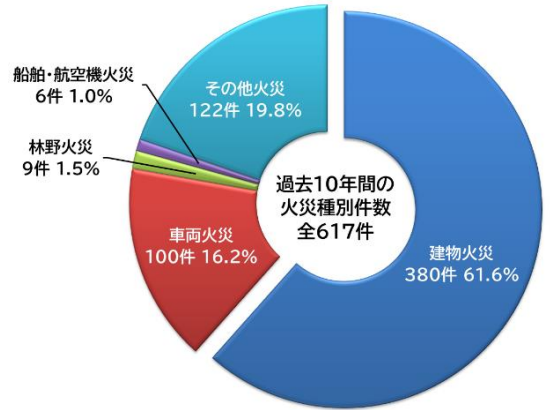
# 1 過去10年間火災の傾向（全617件）

過去10年間で火災は617件発生し、13億6,968万6千円の損害額を出している。火災種別で見ると、建物火災が380件で最も多く、全体の約62%を占めている。

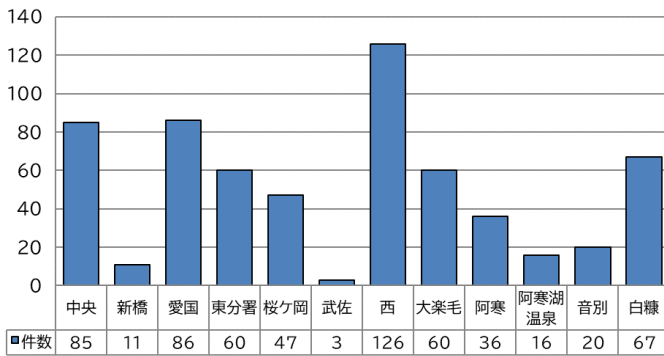
(1) 火災発生件数と損害額



(2) 火災種別件数

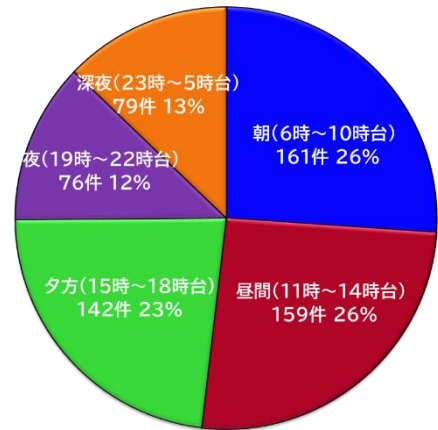


(3) 管轄別火災発生状況



※ 武佐支署は平成25年1月～平成25年3月までの数値  
 ※ 新橋支署は平成25年1月～平成26年3月までの数値

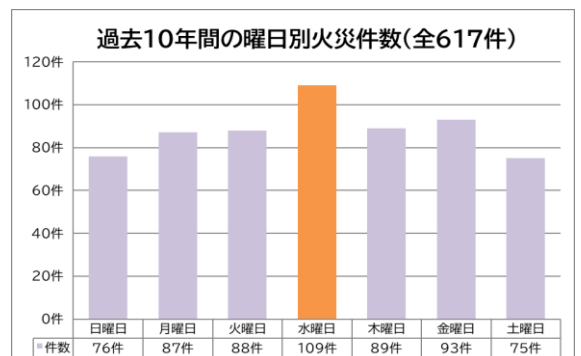
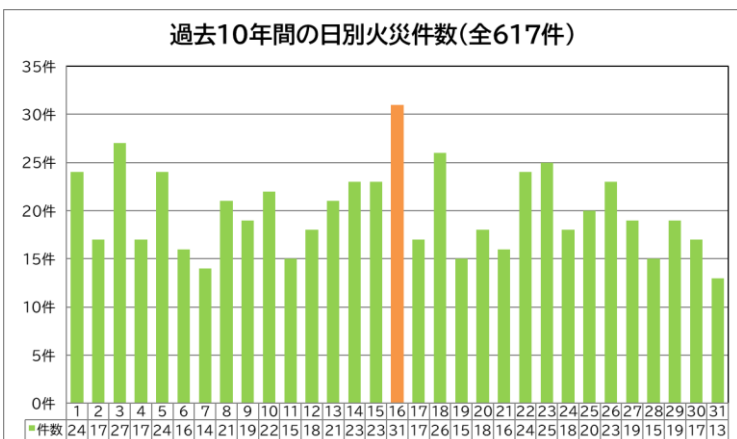
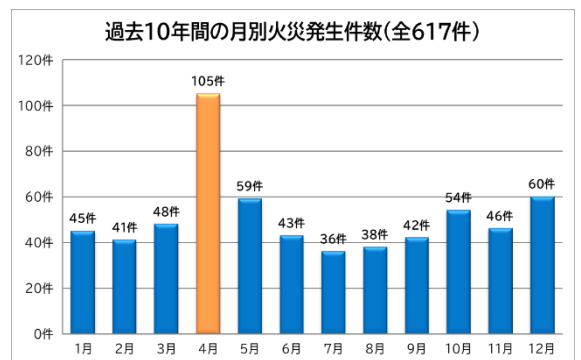
(4) 消防覚知時間帯別火災発生状況



(5) 月別・日別・曜日別火災発生状況

月別で見ると4月が105件で最も多く火災が発生していることがわかる。

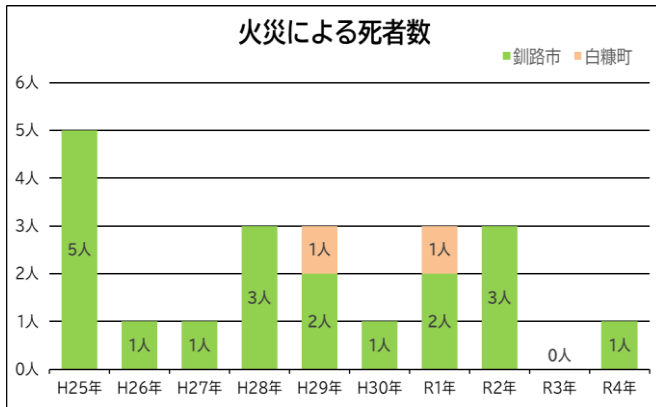
また、日別・曜日別で見ると、16日(31件)水曜日(109件)が最も多く火災が発生していることがわかる。



## (6) 死者及び負傷者の発生状況

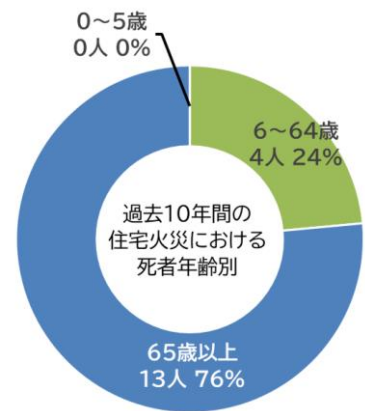
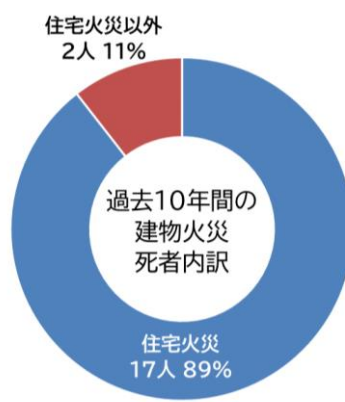
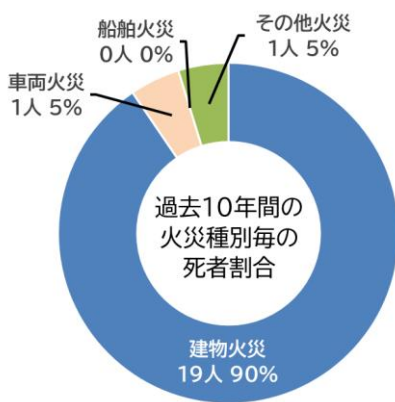
### ア 死者発生状況 (21人)

過去10年間で、火災による死者は21人発生した。そのうち19人は建物火災によるものである。建物火災のうち、住宅火災による死者は17人で、年齢別でみると、65歳以上の高齢者が76%を占めている。



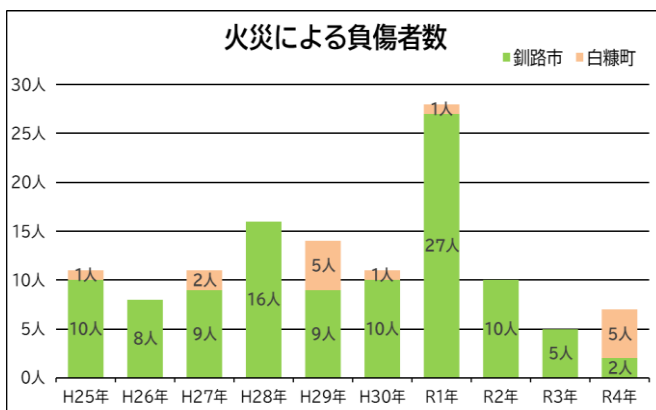
死者の火災種別・年齢別発生状況 (釧路・白糠)

	0~5歳		6歳~64歳		65歳以上		合計	自損
	自損	他	自損	他	自損	他		
建物火災	0	0	6	0	13	0	19	0
住宅	0	0	4	0	13	0	17	0
住宅以外	0	0	2	0	0	0	2	0
車両火災	0	0	1	0	0	0	1	0
船舶火災	0	0	0	0	0	0	0	0
その他火災	0	0	0	0	1	1	1	1
合計	0	0	7	0	14	1	21	1



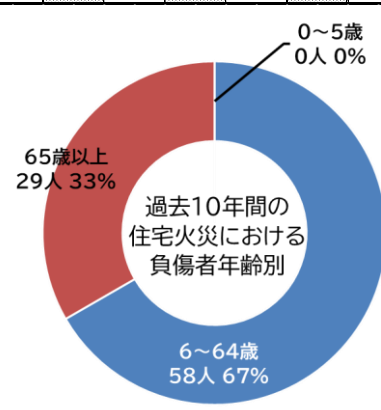
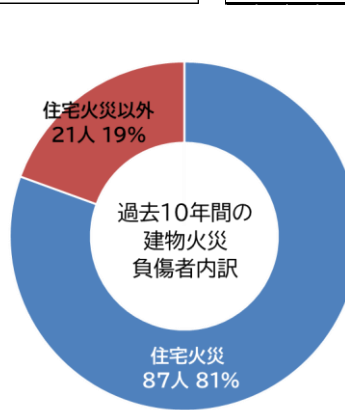
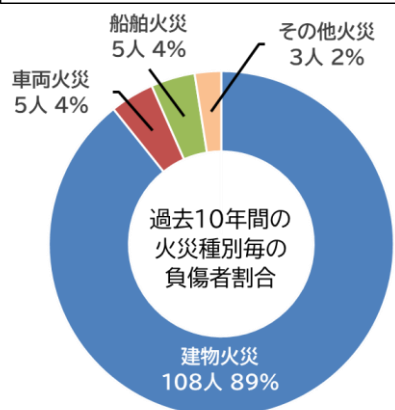
### イ 負傷者発生状況 (121人)

過去10年間で、火災による負傷者は121人発生した。そのうち108人は住宅火災によるものである。



負傷者の火災種別・年齢別発生状況 (釧路・白糠)

	0~5歳		6歳~64歳		65歳以上		合計	自損
	自損	他	自損	他	自損	他		
建物火災	35	0	73	0	0	0	108	0
住宅	29	0	58	0	0	0	87	0
住宅以外	6	0	15	0	0	0	21	0
車両火災	1	0	4	2	0	0	5	2
船舶火災	0	0	5	0	0	0	5	0
その他火災	2	0	1	0	0	0	3	0
合計	38	0	83	2	0	0	121	2



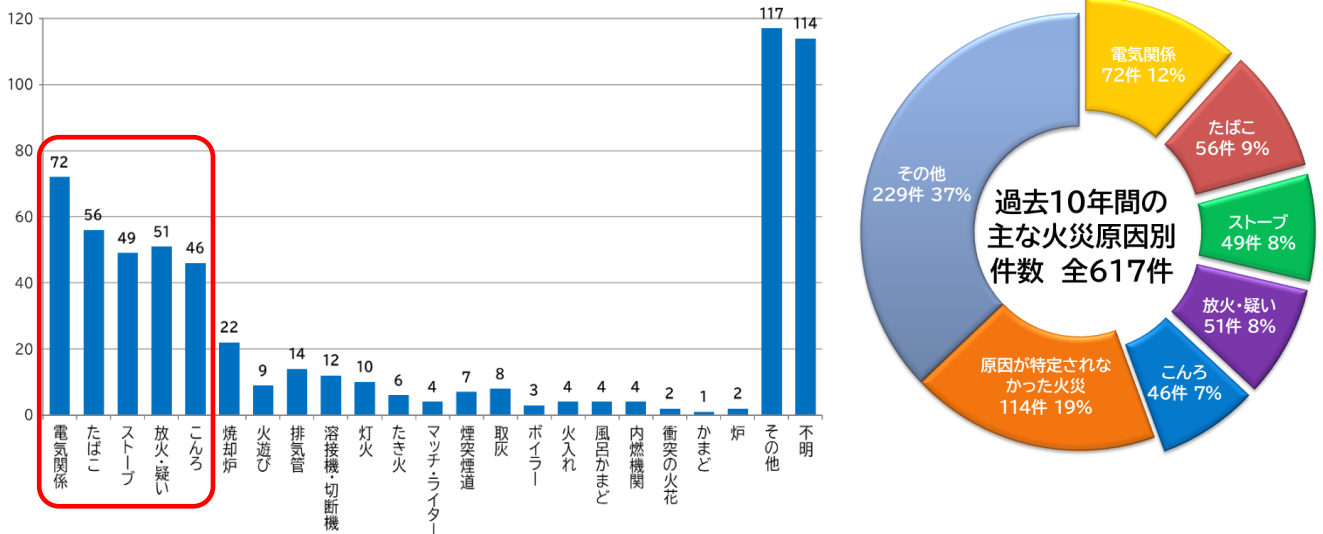
## (7) 火災原因状況

過去 10 年間で最も多い火災原因は「電気関係」で 72 件であった。

次いで、「たばこ」56 件、「放火・放火の疑い」51 件となっている。

主な火災原因として、「電気関係」「たばこ」「ストーブ」「放火・放火の疑い」「こんろ」が列年上位を占めており、全体の 44% を占めている。

過去10年間の火災原因別件数(全617件)



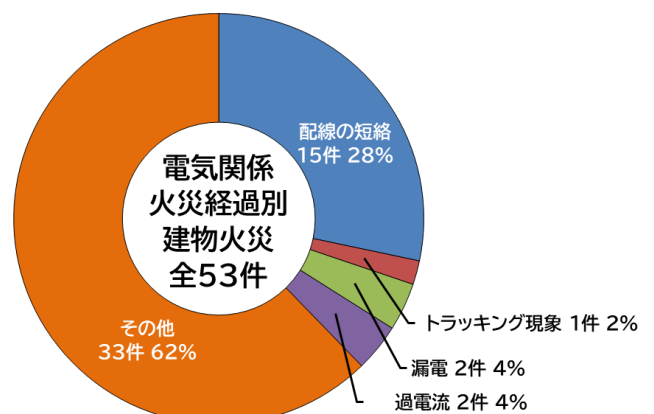
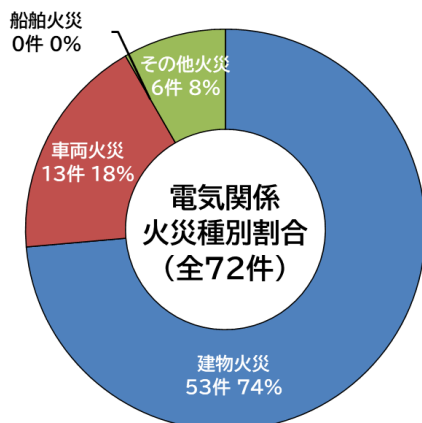
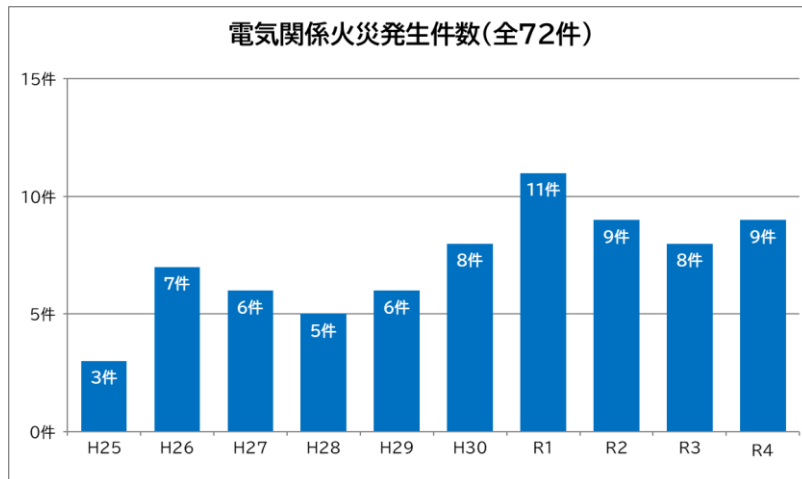
## (8) 火災原因上位について

### ア 電気関係 (過去 10 年で 72 件)

電気関係による火災で最も多い種別は「建物火災」53 件で約 74% を占めている。

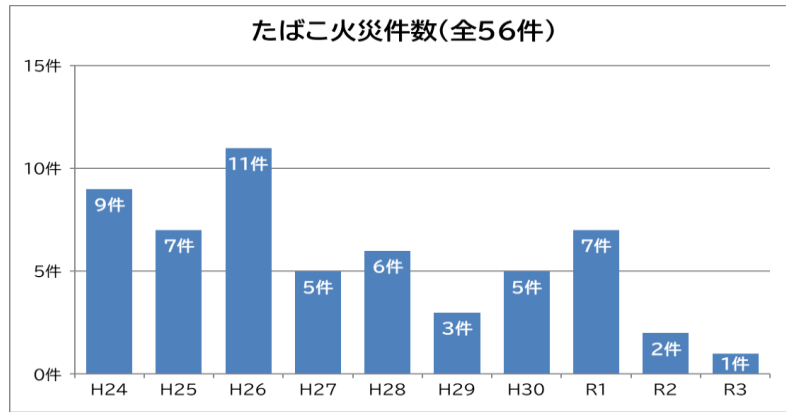
火災へと至った経過について「建物火災」に限定してみると、配線の短絡(ショート)が 15 件で約 28% を占めており、次いで「漏電」2 件、「過電流」2 件、「トラッキング現象」1 件となり、これらで電気関係による建物火災全体の 38% を占めている。

電気関係火災発生件数(全72件)

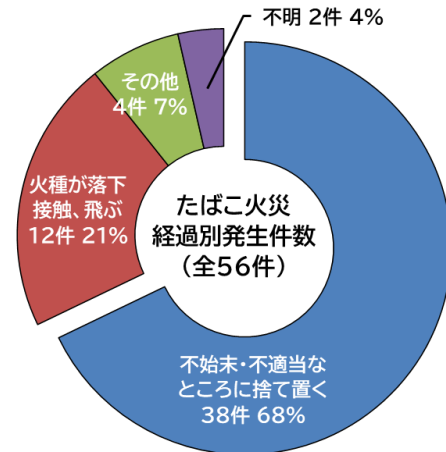


## イ たばこ（過去 10 年で 56 件）

経過別では、「不始末・不適當なところに捨てる」が 38 件で約 68%を占めている。



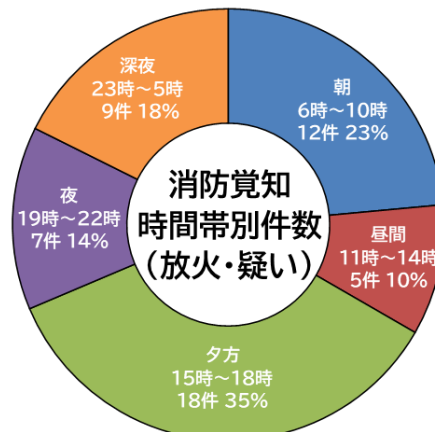
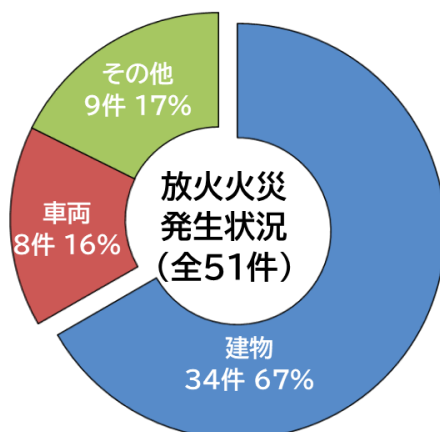
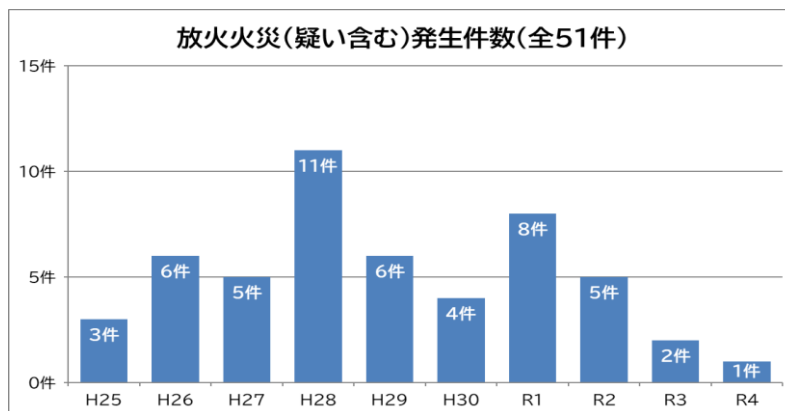
たばこ出火原因経過別件数	
経過別	件数
不始末・不適當なところに捨てる	38件
火種が落下、接触、飛ぶ	12件
灰皿の破損	1件
吸い殻が燃焼し金属製の灰皿が過熱する	1件
本来の用途以外の不適當の用に用いる(蟻駆除)	1件
ライター・ガスの引火する	1件
不明	2件
合計	56件



## ウ 放火・放火の疑い（過去 10 年で 51 件）

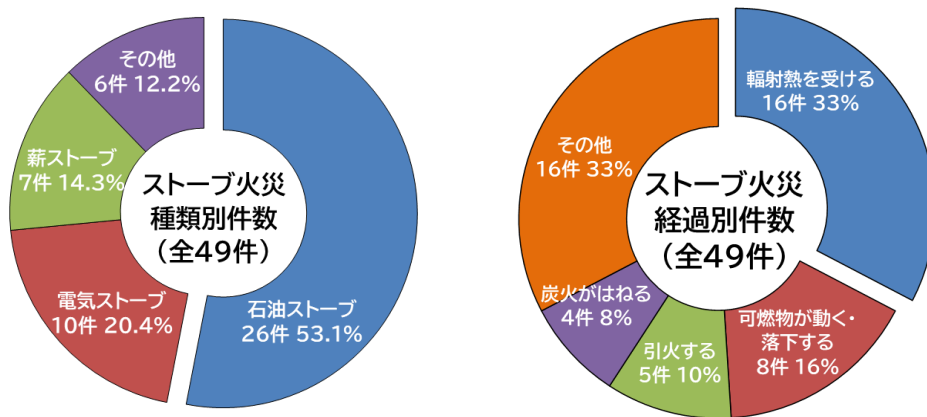
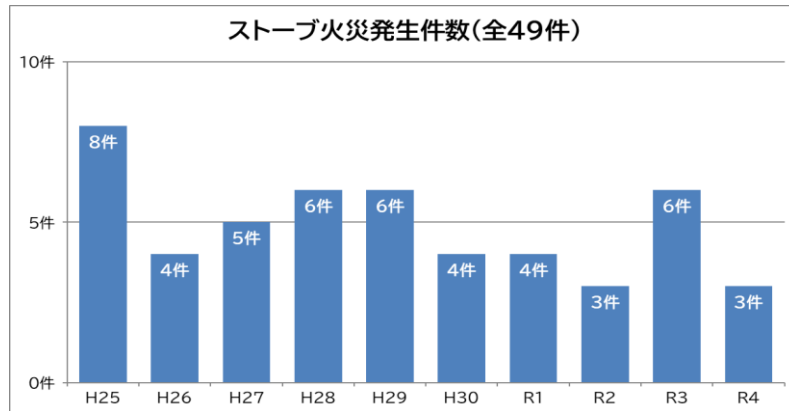
51 件のうち 34 件は建物火災となっている。

消防覚知時間別件数では、夕方（15時から18時台）の発生件数が18件と最も多く、全体の35%を占めている。



## エ ストープ（過去 10 年で 49 件）

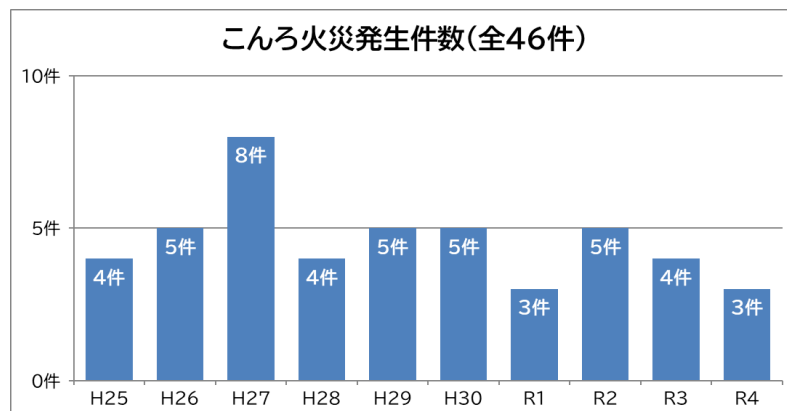
種類別でみると「石油ストーブ」からの出火が 26 件で最も多く、経過別でみると「輻射熱を受ける」が 16 件で最も多かった。



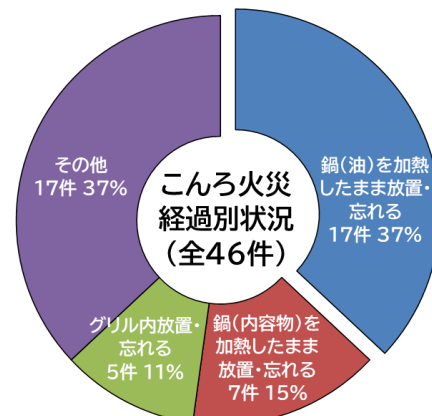
## オ こんろ（過去 10 年で 46 件）

経過別でみると、「天ぷら鍋を加熱したまま放置・忘れる」が 17 件で 37%を占めた。

また、天ぷら鍋以外にも、グリルや鍋を加熱したまま「放置・忘れる」が合計 12 件で 26%占めており、「放置・忘れる」という経過が全体の 63%を占めている。



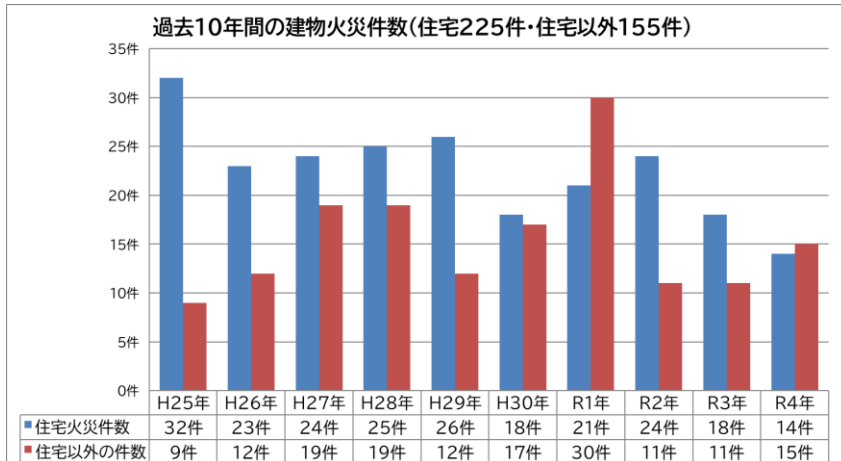
こんろ火災経過別件数	
経過	件数
天ぷら鍋の放置・忘れる	17件
グリル内放置・忘れる	5件
グリル内の過熱	5件
鍋の放置・忘れる	7件
伝導過熱・低温着火	0件
意図無しにスイッチが入る	2件
周囲の可燃物に着火	3件
着衣着火	1件
その他	6件
合計	46件



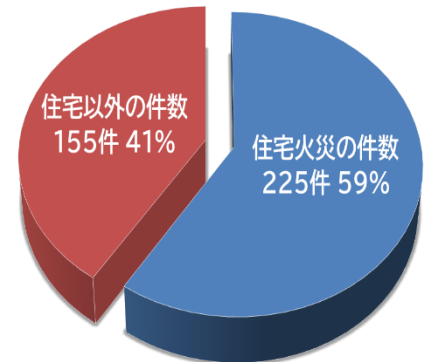
## 2 住宅火災の実態（全 225 件）

### (1) 建物火災中における住宅火災の発生状況

過去 10 年間における住宅火災は 225 件で建物火災全体の約 59%を占めている。



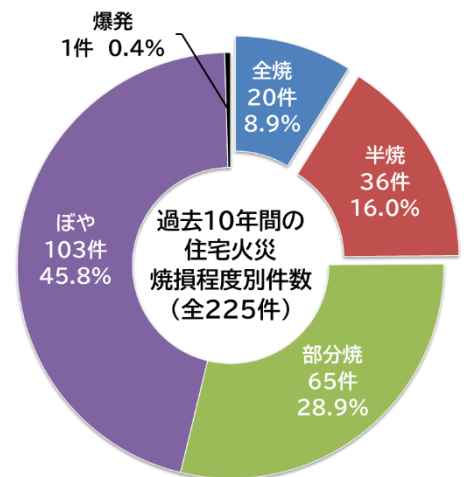
過去10年間の建物火災件数(全377件)



### (2) 住宅火災の焼損程度別件数

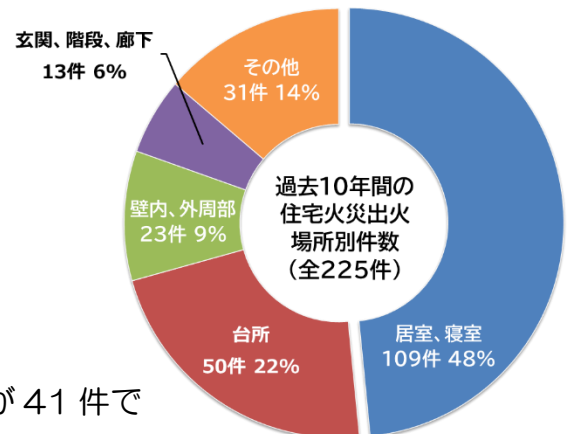
住宅火災の焼損程度別でみると、「ぼや」が 103 件で全体の約 46%を占めている。

また、「全焼」・「半焼」の被害の大きい住宅火災は約 25%を占めており、住宅火災の 4 件に 1 件は大きな被害を受けていることがわかる。



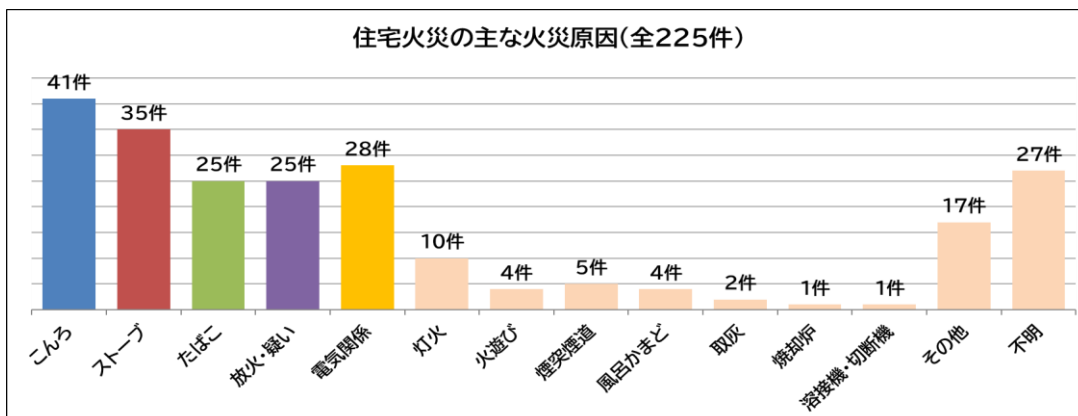
### (3) 住宅火災の出火箇所別件数

住宅火災の出火箇所別でみると、「居室・寝室」からの出火が 109 件で、全体の約 48%を占めている。



### (4) 住宅火災の主な出火原因別火災件数

住宅火災の主な出火原因別でみると、「こんろ」が 41 件で最も多く、次いで「ストーブ」35 件、「電気関係」28 件となった。

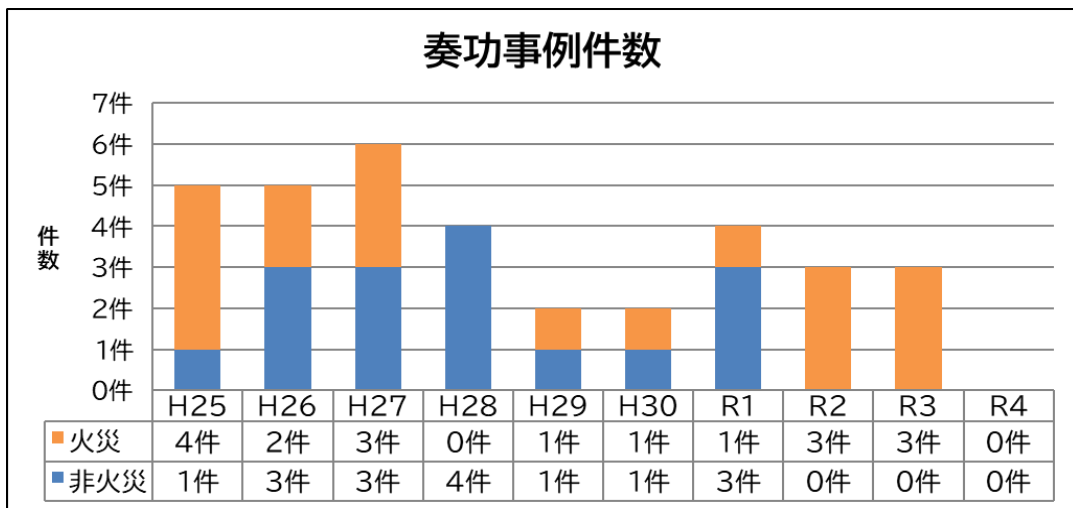
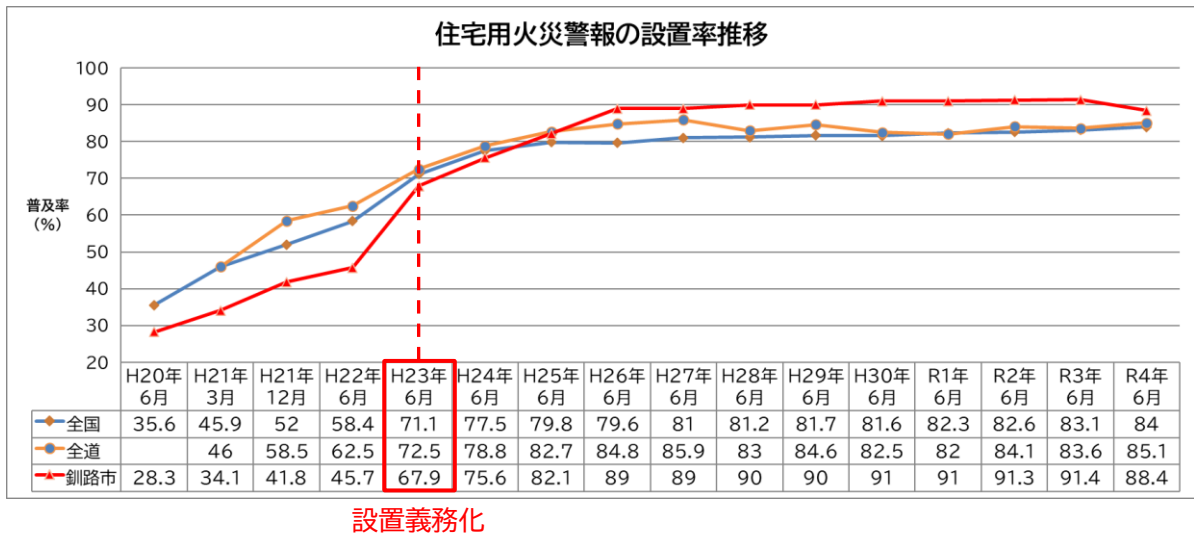




### (5) 住宅用火災警報器の設置状況等

釧路市の住宅用火災警報器設置率は令和4年6月時点で88.4%を占めており、全国・全道の設置率よりも高く推移している。

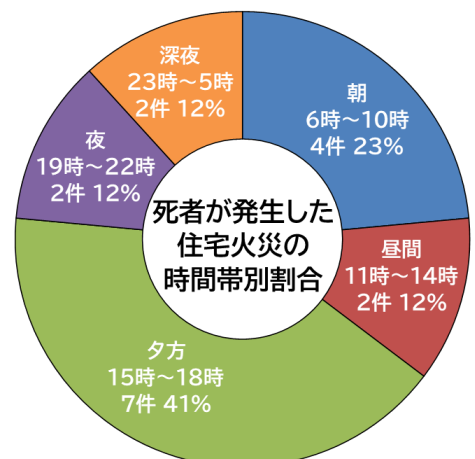
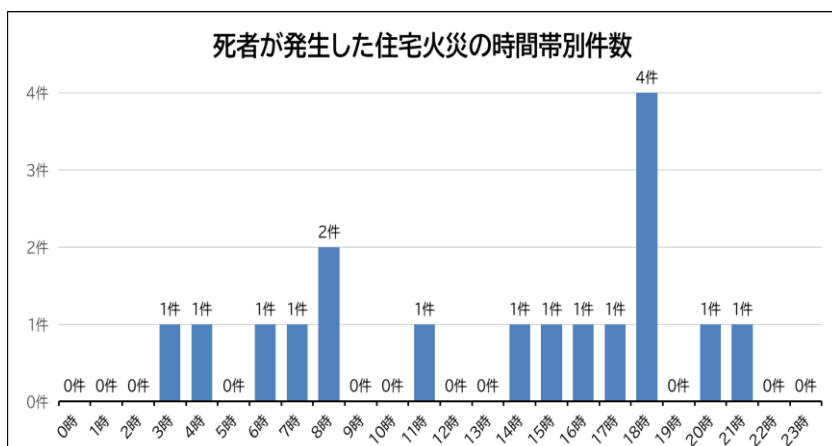
奏功事例は過去10年間で34件発生し、そのうち非火災となったものが16件あった。



※住宅用火災警報器設置の完全義務化は2011年(平成23年)6月1日から

### (6) 住宅火災における死者発生時間帯

過去10年間に住宅で発生した火災で17人(放火自殺者を除く)が亡くなっている。その中で、「18時」4件、「8時」2件と多く発生しており、時間帯でみると夕方から夜にかけての発生が全体の約65%となっている。



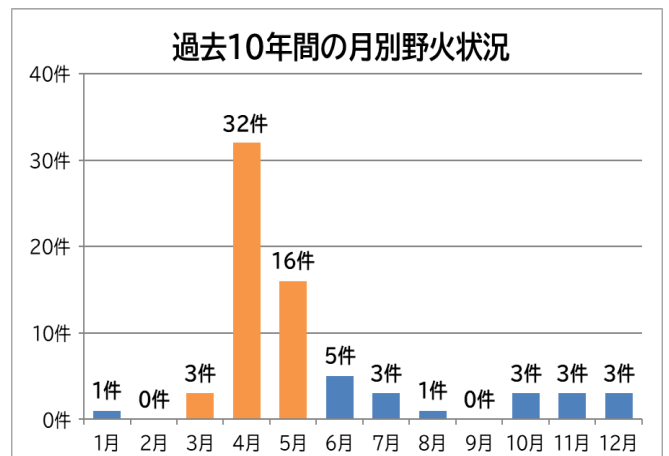
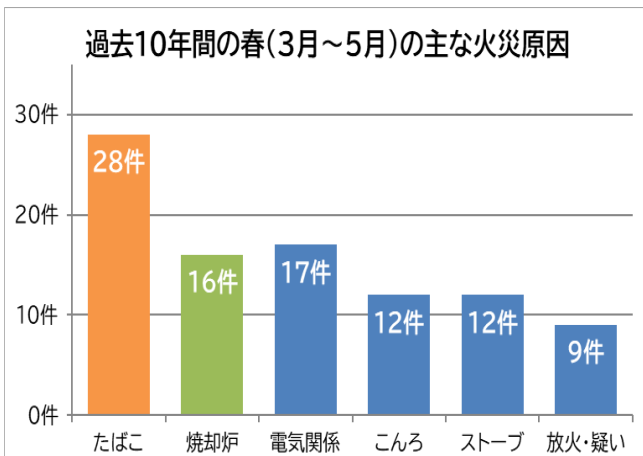
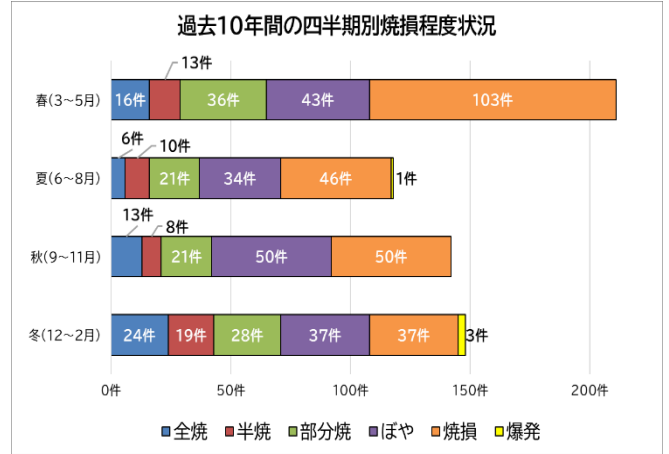
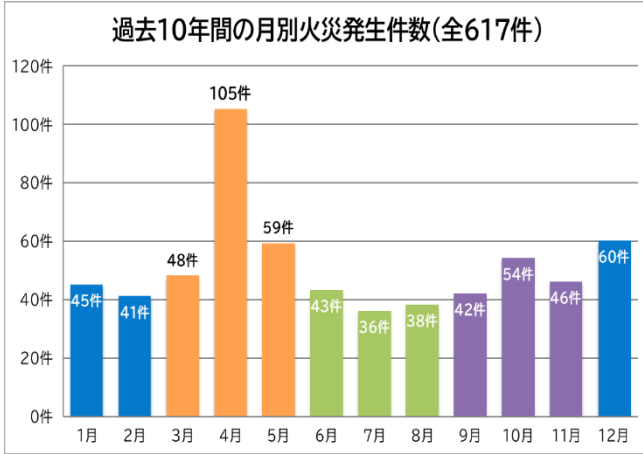
### 3 各時季の火災の特徴について

#### (1) 春（3月～5月）（全 212 件）

1年を通して最も火災の発生件数が多く、他の時季と比べて野火の発生が多い。

火災原因では、上位5位内に他の時季にはない「焼却炉」が入っており、野火へと繋がりがやすい「たばこ」「焼却炉」が多く占めていることが特徴である。

また、焼損程度別件数で見ると、建物以外の火災焼損を示す「焼損」が最も多く占めており、そのほとんどが野火である。

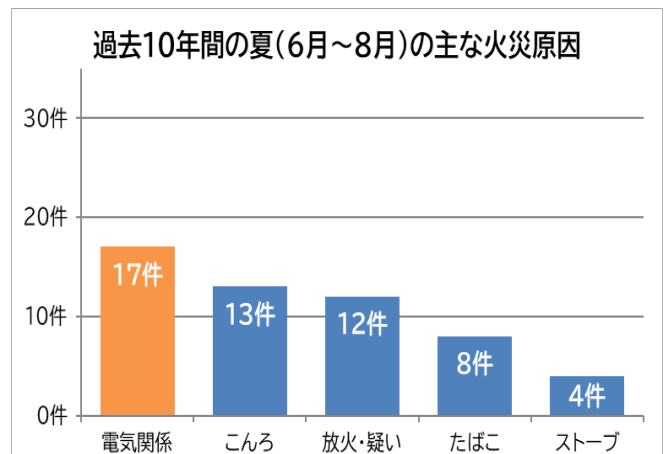
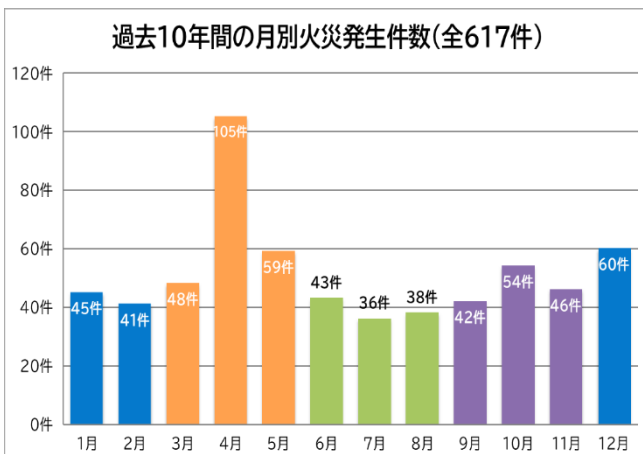


#### (2) 夏（6月～8月）（全 117 件）

1年を通して最も火災の発生件数が少ない時季である。

原因別で見ると「電気関係」が最も多く発生している。

2018年（平成30年）には、6月6日から7月31日の55日間火災の発生がなく、過去10年間で最長の無火災期間となった。

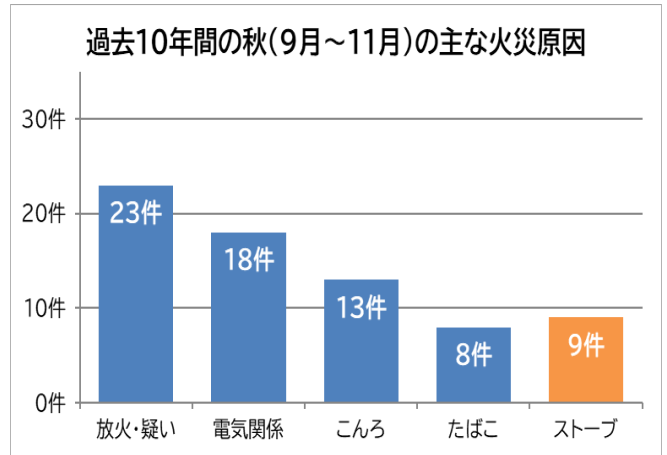
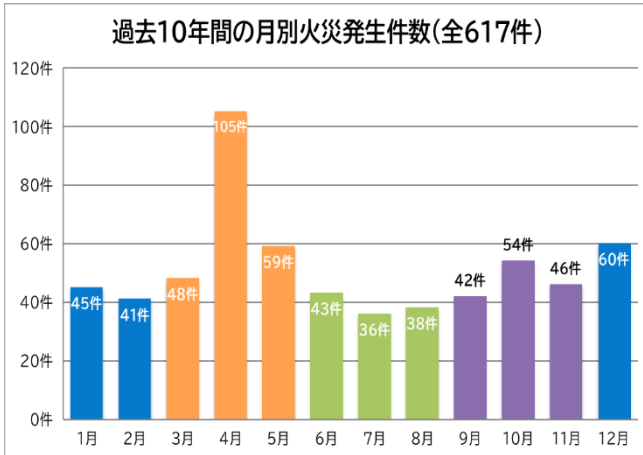


### (3) 秋（9月～11月）（全142件）

夏から徐々に気温が下がり、ストーブ等暖房機器を使用し始める時季である。

火災原因では「夏」に比べ「ストーブ」を原因とした火災件数が増加している。

また、春と同様空気が乾燥しており、火災が発生しやすい時季で、10月には全道一斉秋の火災予防運動を実施している。



### (4) 冬（12月～2月）（全146件）

春に次いで火災発生件数が多い時季である。最も多い火災原因は「ストーブ」で24件発生しており、次いで「電気関係」20件、「たばこ」12件、「こんろ」8件となっている。

焼損程度別で見ると、「全焼」「半焼」の割合が他の時季に比べ多く、火災による死者が最も多く発生していることも特徴である。

